

令和元年6月26日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04130

研究課題名(和文)人口減少時代の地方都市・中山間地域の多文化化と地域振興に関する社会学的研究

研究課題名(英文) The Sociological Study of Multicultural Coexistence and Local Development in Japanese Rural Areas

研究代表者

徳田 剛 (TOKUDA, TSUYOSHI)

大谷大学・社会学部・准教授

研究者番号：60346286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じて、日本の地方部に居住・滞在している外国人住民が抱える生活課題や支援ニーズ、および地域社会の各アクターによるサポート活動や多文化共生の地域づくりに向けた取り組みの、地方ならではの特色を明らかにした。これらの研究成果については、一般公開の研究会(「移住と共生」研究会、年2回、愛媛県松山市にて開催)を通じて知見の共有や発信を行った。また、2019年2月には、本研究の研究代表者・研究分担者と上記研究会に招聘した講師や調査地でのキーパーソンらによる共著書(徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編『地方発 外国人住民との地域づくり』晃洋書房)を公刊し、広く研究成果を発信することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの日本の移民・エスニシティ研究の多くは、大都市圏や日系南米人の集住地域を対象にしてきたために、日本の地方部に暮らす外国人住民の状況やそこでの多文化共生に向けた取り組みについては十分に論じられてこなかった。2019年4月より施行された改正入管法のもと、今後は人口減少や労働力不足がますます深刻化する日本の地方部においても外国人の来住がますます増加するものと考えられる。本研究を通じて、地方独特の課題やそこでの先進的な取り組みについての情報発信を行うことができたが、外国人受け入れの経験やノウハウの乏しい諸地域のニーズにも十分応えられるものであると確信している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to show tasks to support for the foreign residents in Japanese rural areas, and for coexistence of foreign residents and host communities. For the purpose, we researched several areas(Ehime, Okayama, Shimane prefecture and so on), and presented the achievement in our study group and academic societies. In addition, we published an academic book about this theme, in February, 2019.

研究分野：地域社会学

キーワード：地方在住外国人 多文化共生 外国人非集住地域 移民政策 ローカルガバナンス

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の地方部における多文化共生の取り組み状況

日本の地方部は元来外国人人口が比較的少ない地域が多く、彼ら・彼女らの各種サポートや外国人住民との多文化共生の地域づくりの取り組みについても、地方では政策課題としての優先順位が低く、予算配分や人的措置もきわめて不十分な状況があった。その中で、地域国際化協会や地域の日本語教室スタッフなど限られた人材で広域に散在する外国人住民への対応に苦慮しながら取り組んできた。そうした中、農林水産業や漁業・水産加工業の基幹労働力としての中国、フィリピン、ベトナムなどからの技能実習生の急増に伴い、地方でも 2010 年代に入って外国人人口数が急増する傾向が見られ、地方在住外国人の実態把握と多文化共生のための体制整備が喫緊の課題となりつつあった。

(2) 先行研究の状況

日本の移民・エスニシティ研究は、東京・大阪都市圏に多く分布する在日コリアン住民の集住地域、および 1990 年以降に中部・東海・北関東などの工業集積エリアに形成された日系南米人の集住地域をフィールドとしたものに偏っていて、(ムラの国際結婚関連を除くと)日本の地方部における外国人住民の状況やそこでの多文化共生の取り組みについての先行研究は存在しなかった。その後、本研究班のメンバーの執筆による書籍(徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子『外国人住民の「非集住地域」の地域特性と生活課題 - 結節点としてのカトリック教会・日本語教室・民族学校の視点から -』創風社出版、2016 年)が出版され、地方での多文化共生の社会づくりについての研究への端緒を開いたが、この分野における研究の地域的な偏りは依然として小さくない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、少子高齢化と国内外での人口移動の常態化により人口流失や地域住民組織の弱体化、産業の流出や衰退に悩まされがちな日本の地方都市や中山間地域に來住した外国人住民の現状と課題を明らかにし、彼ら・彼女らと日本人住民がともに地域社会を新たに創造し活性化させていくための指針を示すことにある。

この研究目的を遂行するため、当該地域に分散して暮らす外国人移住者・滞在者の居住状況を把握し、移住・滞在先の選択や移動経路、社会関係や集団参加の状況、日常生活における課題等を把握した上で、彼ら・彼女らの來住と定着、社会参加が地域社会にもたらす影響とその意義を明らかにする。最終的には、外国人住民を地域の貴重な人的資源と位置付けた地域振興モデルの構築を目指す。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究では具体的に以下のような諸課題に取り組んだ。

(1) 先行研究およびすでにメンバーが行った調査等の研究成果の整理

(2) 現在の「地方都市・中山間地域の多文化化」を中心的に担うニューカマー外国人(技能実習生・国際結婚移住女性・留学生等)に関する調査研究

(3) 地方在住のオールドタイマー移民である在日コリアン住民とそのコミュニティに関する調査研究

(4) 外国人住民の結節点や支援拠点となりうる当該地域内の諸組織(国際交流協会、地域の日本語教室、教会・寺院等の宗教施設など)の存在意義とその役割に関する調査研究。

本研究では、とくに各テーマの地域間・事例間の比較検討に重きを置き、これまでの各員に

よる経験的な事例研究の成果を他地域のそれと比較し、それらに通底する要因や一般化可能な知見を導出することにより、これまでに多くの先行研究の蓄積のある「集住地域」の多文化化とは違った形をとる、「地方都市・中山間地域の多文化化」のプロセスについての理論モデルの構築と、当該地域での課題解決のためのアプローチ方法等について提言を行った。

4. 研究成果

(1) 事例調査、フィールドワークの実施とその比較検討

研究期間の3年間において、これまでの調査研究において収集・分析をしてきた地方における多文化共生の地域づくりや地方在住外国人が抱える多様な生活課題へのサポートについて取りまとめを行ったが、これまでの主要な調査対象地域の瀬戸内地方（愛媛県、岡山県など）に加えて、山陰地方（京都府京丹後市、島根県出雲市、同雲南市など）において新たに調査研究を行い、これらの地域間での比較検討を行うことができた。

(2) 公開研究会（「移住と共生」研究会）の開催

多文化共生や外国人支援の現場の実践者や研究者を招聘し公開講演を行う「移住と共生」研究会を各年につき2度開催した。各回の内容は、地方の地域国際化協会の役割、日系フィリピン人の動向、長野県飯田市における多文化共生の地域づくり、四国朝鮮初中級学校・オープンスクールでのフィールドワーク、地方在住外国人（とりわけ結婚移住女性）のメンタルヘルス、地方のムスリムコミュニティなど多岐にわたった。これらに登壇した講演者のうち何名かは、本研究の成果として出版された論集の著者としても執筆に参加している。この研究会の開催は、地方の外国人支援や多文化共生の現場での取り組み・知見についての共有、発信に大いに資するものとなった。

(3) 研究成果（徳田剛ほか編『地方発 外国人住民との地域づくり』）の公刊

本研究は、2019年4月の出入国管理法の改正と同時にその研究期間を終了するが、この法改正によって地方部においても外国人来住数がさらに増加することが見込まれ、地方部における多文化化対応の事例やノウハウを取り扱う本研究の成果へのニーズが高まることが予想された。これを受けて、最終年度の2018年度においては、上記の研究活動と並行して、本研究の代表者・研究分担者、「移住と共生」研究会の講師、調査協力をいただいた活動家らの分担執筆によって、地方におけるそれぞれの活動分野や研究テーマについて記述・分析をした論集の公刊作業に注力し、2019年2月に刊行することができた（徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著『地方発 外国人住民との地域づくり - 多文化共生の現場から』晃洋書房）。同書は多くの研究者や現場の活動家の方々より好評を博しており、2019年5月に増刷対応となっている。

以上のような形で研究成果の取りまとめと発信により、地方部での多文化共生の地域づくりに向けたさまざまな提言を行うことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

徳田剛、「地方在住外国人の増加と地域社会の対応についての考察 - ローカルガバナンス論の視点から」『社会分析』46号、日本社会分析学会、3-22、2019、査読無し、http://www.jsasa.org/paper/46_1.pdf

二階堂裕子、「外国人技能実習生と地域住民の顔の見える関係の構築 岡山県美作市における

地域再生の試み」『社会分析』46号、日本社会分析学会、63-81、2019、査読無し、
http://www.jsasa.org/paper/46_4.pdf

二階堂裕子、「外国人技能実習制度による国際貢献に向けた課題 ベトナムにおける農業分野の技能移転の可能性」『西日本社会学会年報』17、47-61、2019、査読無し
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sswj/-char/ja/>

田村周一、「地方社会における外国人医療に関する社会学的研究 医療における言語支援・多言語対応を中心に」『聖カタリナ大学人間文化研究所紀要』23、1-16、2018、査読無し

〔学会発表〕(計 21 件)

徳田剛、「日本の地方部における多文化化対応の現状と課題」、移民政策学会 2019 年度年次大会、立教大学、2019 年

徳田剛、「地方での多文化共生の地域づくりに向けた諸課題」、名古屋多文化共生研究会・6 月例会、名城大学、2019 年

二階堂裕子、「外国人技能実習生の帰国後の就労をめぐる現状と課題 ベトナム人技能実習生を事例に」、西日本社会学会第 76 回大会、九州大学、2018 年

二階堂裕子、「地方自治体による多文化化戦略と技能実習生の受け入れ 広島県安芸高田市と岡山県美作市を事例に」、日本地域政策学会第 17 回全国研究大会、岡山大学、2018 年

二階堂裕子、「外国人労働者の活用による地方都市の成長戦略 外国人技能実習生と日系ブラジル人の受け入れをめくって」、日本都市社会学会第 36 回大会、名古屋学院大学、2018 年

魁生由美子、「日本人は朝鮮学校で何を学ぶか」、韓国ハンベク教会研修会、2018 年

魁生由美子、「隣保館による多文化共生の取組み 「勉強会」と「ふれあい祭り」の事例から」、関西社会学会第 69 回大会、松山大学、2018 年

田村周一、「地方社会における外国人住民に対する医療・福祉 医療福祉機関の多言語対応・日本語支援を中心に」、関西社会学会第 69 回大会、松山大学、2018 年

徳田剛、「地域国際化協会の現況と課題 “国際交流” と “多文化共生” のはざままで」、日本都市社会学会第 35 回大会、早稲田大学、2017 年

徳田剛、「地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略(1) 島根県出雲市、京都府京丹後市の事例」、日本社会学会第 90 回大会、東京大学、2017 年

二階堂裕子、「地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略(2) ベトナム人の受け入れを進める岡山県美作市の事例」、日本社会学会第 90 回大会、東京大学、2017 年

二階堂裕子、「外国人技能実習制度の課題に関する一考察 ベトナム人若年層の日本就労意識に関する調査から」、関西社会学会第 68 回大会、神戸学院大学、2017 年

二階堂裕子、「農業部門における多様な担い手の可能性 外国人技能実習生に注目して」、地域農林経済学会 2017 年度中国支部大会(招待講演)、岡山大学、2017 年

魁生由美子、「在日外国人の人権 四国朝鮮初中級学校で見たこと・考えたこと」、第 54 回愛媛・父母と教職員の教育研究会(招待講演)、愛媛県勤労会館、2017 年

魁生由美子、「差別に対抗する 法律、行動、差別の実態」徳島県立城東高校人権教育研修セミナー(招待講演)、2017 年

魁生由美子、「多様性の学び方 地域から学校へ、教室から地域へ」、西条市教科外研修会(人権・同和教育部会)、(招待講演)、2017 年

魁生由美子、「学ぶことと働くこと 多文化・多様性の中で / 多文化・多様性のために 」
愛媛県立新居浜西高等学校「仰(総合的な学習の時間)」(招待講演) 2017年

徳田剛、「外国人住民の「非集住地域」研究の可能性 現況と課題 」地域社会学会 平成 29
年度第 1 回研究例会、首都大学東京、2016 年

徳田剛、「外国人住民の「非集住地域」研究の課題と可能性」第 1 回「移住と共生」研究会、
愛媛県国際交流センター、2016 年

徳田剛、「「非集住地域」における結節点としてのカトリック教会 地方在住のフィリピン系
信徒の動向から 」、日本社会学会第 89 回大会、九州大学、2016 年

② 二階堂裕子、「外国人技能実習制度は「国際貢献」に寄与しているか ベトナム
人技能実習生を事例に 」、日本都市社会学会第 34 回大会、2016 年

〔図書〕(計 7 件)

徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編、『地方発 外国人住民との地域づくり - 多文化共生の現
場から』晃洋書房、376 頁、2019

徳田剛、「外国人たちの大阪都心」、鯉坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編『さまよえる大
都市・大阪 - 「都心回帰」とコミュニティ』東信堂、358 頁 (pp.295-304) 2019

二階堂裕子、「大阪都心のニューカマーコリアン」、鯉坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編『さ
まよえる大都市・大阪 - 「都心回帰」とコミュニティ』東信堂、358 頁 (pp.305-315) 2019

徳田剛、「地域政策理念としての「多文化共生」と宗教セクターの役割」、高橋典史・白波瀬
達也・星野壮編『現代日本の宗教と多文化共生 - 移民と地域社会の関係性を探る』明石書店、
234 頁 (pp.205-228) 2018

二階堂裕子、「多文化共生—在日コリアンとの共同関係から考える—」、上水流久彦他編著『東
アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂、257 頁 (pp.169-187) 2017

二階堂裕子・鄭栄鎮編『在日外国人教育とコミュニティの力—アイデンティティをはぐくむ—』
大阪市立大学都市研究プラザ、66 頁、2017

大黒屋貴稔、「戦後日本の社会学にみる学知の更新：『社会学評論』における「共生」言説の
量的・質的変遷」、岡本智周・丹治恭子編著『共生の社会学 : ナショナリズム、ケア、世代、社
会意識』太郎次郎社エディタス、270 頁 (pp.242-262) 2016

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名： 二階堂 裕子

ローマ字氏名： Nikaido Yuko

所属研究機関名： ノートルダム清心女子大学

部局名： 文学部

職名： 教授

研究者番号 (8 桁) : 30382025

研究分担者氏名： 魁生 由美子

ローマ字氏名： Kaisyo Yumiko

所属研究機関名： 愛媛大学

部局名： 教育学部
職名： 准教授
研究者番号（8桁）：70331858

研究分担者氏名： 田村 周一
ローマ字氏名： Tamura Shuichi
所属研究機関名： 聖カタリナ大学
部局名： 人間健康福祉学部
職名： 講師
研究者番号（8桁）：50467643

研究分担者氏名： 大黒屋 貴稔
ローマ字氏名： Ooguroya Takatoshi
所属研究機関名： 聖カタリナ大学
部局名： 人間健康福祉学部
職名： 准教授
研究者番号（8桁）：00386575

(2)研究協力者

研究協力者氏名： 梅村麦生
ローマ字氏名： Umemura Mugio

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。